

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S450004	株田昌彦	デッサンⅠ	デッサンの基礎として、基本的な対象の捉え方や道具の使用法を踏まえ、対象の持つ質感、形態、量感、空間感といった造形要素について指導する。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	中学校・高等学校の「美術」において必要な基本的な描写(対象の形態、質感、量感の描写)を修得する。相対的な対象の明暗(正確なヴァール)、対象の空間的な位置関係を表現できる事を目標とする。	0.4	0.1	0.4	0.1	0.0
S450012	株田昌彦	デッサンⅡ	デッサンⅠで習得した内容(対象の基本的な捉え方)を基に、石膏像や人物の描法を指導する。また、作家のデッサンを紹介し、タブローとの関わりを明確にすることで、絵画における表現意図と描画法の関係について取り上げる。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	石膏像や人物の造形的な特徴(プロポーション、質感、量感、空間感)を意識した描画が出来る。木炭によるデッサンを描き、鉛筆での描画と異なる表現の効果について理解する事を目標とする。中学校・高等学校の「美術」において、必要な人物描写の方法を修得する。	0.4	0.1	0.4	0.1	0.0
S451008	株田昌彦	水彩画Ⅰ	透明水彩を用いた静物画や人物画の制作を通して、水彩画の基礎技法についての実技指導を行う。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、水彩画の基礎となる内容を扱い、「絵画Ⅰ」で必要な色彩による描画法を修得する。中学校美術において水彩画を描く場合、彩色でとまどう生徒が多く、指導者の水彩画の技能や素材特性における知識が重要である。この授業では、透明水彩の性質を踏まえ、作品制作による実践を通すことにより指導力を養成する。	水彩画特有の表現法(にじみ、暈し、重色等)を修得する。「デッサンⅠ、Ⅱ」で修得した観察力や描写力を生かし、人物画における表情、プロポーション、明暗、動勢、臨場感等を表現できる。中学校・高等学校の「美術」において必要な水彩画の基礎技能のポイント(水加減、筆の使用法)を修得する。	0.4	0.1	0.4	0.1	0.0
S451016	株田昌彦	水彩画Ⅱ	授業の前半では、水彩画Ⅰで習得した内容を基に透明水彩絵具を用いて細密画の実技指導を行う。後半では、アクリル絵具を用いた技法を小作品によって実践し、構想画制作の実技指導を行う。	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、水彩画の発展的な内容を扱う。また、アクリル絵具の特有の素材感(可塑性、透明性)を生かした作品を制作することで、図画工作や美術の授業における題材開発の能力向上を目指す。	「デッサンⅠ、Ⅱ」を基礎とした観察力や描写力を生かし、透明水彩による細密表現が出来る。また、アクリル絵具を用いた技法に触れ、絵画表現の幅を広げ、中学校・高等学校の「美術」における題材開発の能力を養う。	0.4	0.1	0.2	0.3	0.0
S452005	未定	彫塑Ⅰ	泥粘土を使用して自然物、人物をモデルにレリーフ作品を作る	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1
S452015	未定	彫塑Ⅱ	泥粘土を使用して自然物、人物をモデルにレリーフ作品を作る	中学校・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1
S456009	未定	彫塑Ⅲ	泥粘土を使用して人物をモデルに立体作品を作る	中学校一種・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、彫塑制作における基礎力を養う意義を持つ。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S456018	未定	彫塑Ⅳ	泥粘土を使用して人物をモデルに立体作品を作る。	中学校一種・高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、彫塑制作における基礎力を養う意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 人間を含む自然物の観察力の向上。 表現能力と技術の習得をする。 教授能力を身につける。 	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1
S453009	梶原良成	平面構成Ⅰ	美術の全領域および美術教育の基礎となる色彩の概論を教科書・教材を使って体系的に説明しながら、それに対応した実技課題を行っていく。あわせて、平面表現の基礎的技法について指導する。	「美術」中学校一種二種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 中高美術教員として必要な色彩基礎理論について、その本質や体系、心理や調和などを修得する。 基礎的な実技課題を通して、色彩の理論の実際について、制作法とその効果について理解する。 絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について修得する。 	0.4	0.2	0.1	0.2	0.1
S453019	梶原良成	平面構成Ⅱ	平面構成Ⅰで修得したことを色彩に関する実技の成果を基に、平面空間について、色彩と形態の関係から構成していく実技課題を行う。平面表現の基礎的技法についてもさらに指導する。	「美術」中学校一種二種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許を取得するための必修科目であり、美術教育専攻の全ての実技科目の基礎としての意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 中高美術教員として必要な色彩基礎理論について、課題を通じてさらに理解を深め、自己の平面表現に生かせるようにする。 平面空間の構成法について、色彩と形態の関係から理解し、与えられた条件を生かした平面表現をできるようにする。 絵具、筆など用具類の使用法や水張りなどの基本的な準備の仕方について習熟する。 	0.4	0.2	0.1	0.2	0.1
S457006	梶原良成	デザインAⅠ	平面デザイン(グラフィック、テキスタイル・デザインなどの基礎的内容)を主とする。生活環境における平面メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。	「美術」中学校一種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を構築するための基礎となる実技科目としての意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。 課題として与えられたテーマに対して、生活の視点で造形をとらえ、そこからの発想や構想の方法の基礎を身につける。 デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。 	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S457014	梶原良成	デザインAⅡ	立体・空間デザイン(プロダクト、建築・環境デザインの基礎的内容)を主とする。生活環境における立体・空間メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。	「美術」中学校一種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を構築するための基礎となる実技科目としての意義を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。 課題として与えられたテーマに対して、生活の視点で造形をとらえ、そこからの発想や構想の方法の基礎を身につける。 デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。 	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S454007	松島さくら子	立体構成Ⅰ	イメージ・素材・空間・機能性など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題、紙・スタイルフォームなどそれぞれ材質・加工要領の異なる素材を使用して立体物を形成していく課題を行う。	中学校教科「美術」にかかるとは科目で必修である。また、高等学校一種「美術」及び「工芸」の免許を取得するための必須科目。美術工芸分野において立体造形の基礎を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題を通し、イメージ・素材・空間・機能性など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な理解力を養う。 素材の加工方法・表現方法を学び、立体表現の基礎技法を習得する。 	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S454015	松島さくら子	立体構成Ⅱ	イメージ・素材・空間・機能性など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。自然物による立体構成・回転体による構成他、3つの課題に取り組み立体物を形成していく課題を行う。	中学校教科「美術」にかかる科目で必修である。また、高等学校一種「美術」及び「工芸」の免許を取得するための必須科目。美術工芸分野において立体造形の基礎を習得する。	・定められた課題テーマを通し、素材の選定やその用途や形態のコンセプトを定め、そのイメージを形成するための基礎的な理解力を養う。 ・素材の加工方法・表現方法を学び、立体の基礎表現技法を深める。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S458005	松島さくら子	工芸Ⅰ	彫金の基礎的な表現方法を学習し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが金属素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	学校教育教員養成課程の専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める授業ある。中学校・高等学校一種「美術」の免許を取得するための必修科目、及び高等学校一種「工芸」の免許を取得するための必須科目。	・彫金の基本的な表現方法を修得し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが金属素材を通してどう表現されるのか」ということを探る。 ・金属素材と技法を通しどのような表現の可能性が見いだせるのか探りながら、工芸の多様な表現について理解を深める。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S458029	松島さくら子	工芸Ⅱ	木工芸において、材料・道具の取り扱い、加工方法を学習し、テーマに沿って機能性を考慮すると共に「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	学校教育教員養成課程の専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める授業である。中学校・高等学校一種「美術」の免許を取得するための必修科目、及び高等学校一種「工芸」の免許を取得するための必須科目。	・木材加工の基本的な材料・道具の取り扱い、表現・加工方法を習得し、テーマに沿って機能性を考慮すると共にどのような表現の可能性があるのか探りながら、「イメージが木材を通してどう表現されるのか」ということを探る。 ・工芸の多様な表現について理解を深める。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S455000	本田悟郎	美術理論	美術理論では美術とは何かという根本問題を扱う。美術を理解するための重要な事項として、美術概念の変遷、モダニズムとアヴァンギャルド、作品受容の諸理論などを講義する。	中学校・高等学校の美術免許取得のための必修科目であり、美術に関する理解を深め、理論的な側面から、美術教員としての素養を高める。	学問としての美術理論と自己の関心をつ結び、教育の現場や美術諸領域のさまざまな活動に欠くことのできない美術理論の基礎的な素養と論理的思考を養うことを目標とする。	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1
S459009	株田昌彦	絵画Ⅰ	油彩画制作における基礎的な実技指導を行う。それと同時に油彩画の表現について歴史上の作品や現代作家における技法及び描法を紹介し解説する。	高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、油彩画の基礎的な内容を扱う。学校教育の現場では、油彩画の制作は一般的ではないが、鑑賞授業の題材として取り上げられる作品には油絵具で描かれたものが多くある。本授業では、油彩画における素材の使用法を実作品（作家の作品）と対応させ、受講学生の鑑賞能力の向上も図る。	油彩による素材の特徴を理解し、マチエール、重層、暈し、グレージングといった技法を駆使した対象の描写が出来る。明暗による対象の立体感、空間感を表現する能力に合わせた、動勢やプロポーション、画面構成を意識した構図を考える事が出来る。作家の作品における素材の使用法を理解し、鑑賞の能力を養う。	0.3	0.1	0.1	0.5	0.0
S459017	株田昌彦	絵画Ⅱ	自由テーマによる絵画（油彩、水彩、鉛筆画、パステル等）の制作について実技指導を行う。使用素材は各自で選択し、参考とする作家の作品における表現について考察するための助言を与える。	高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、絵画分野の発展的な内容を扱う。絵画を構想するために必要な要素（テーマ、構図、配色、表現様式等）を理解し実践することで、絵画分野での「卒業研究」に向けた素養を身に付けさせる。	「デッサンⅠ、Ⅱ」、「水彩画Ⅰ、Ⅱ」、「絵画Ⅰ」で修得した内容を応用し、自己の絵画表現を構築できる。そのために、自分のテーマに即したイメージをデッサンやエスキースによって具現化し、適切な素材や表現を選ぶ事が出来る。中学校・高等学校の「美術」で扱われる構想画を描く題材における指導力（発想力、構想力、描画能力）を修得する。	0.2	0.2	0.2	0.4	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S461005	本田悟郎	美術史	西洋と日本の美術変遷を概観する。また、美術史の通史理解に留まらず、特に近代以降の美術概念の変遷を主要な論点として講義する。	中学校教科美術に関わる科目であり、美術の変遷から表現の多様性を理解し、表現と鑑賞の指導を充実させることに対応している。	美術史研究を通して、美術への理解を深めるとともに、芸術観、教育観の視野を広げ、基礎的素養を養うことを目標とする	0.4	0.1	0.1	0.3	0.1
S474004	梶原良成	デザイン理論	人類史上におけるあらゆるもの・空間の創造を概観していくことで、デザインの本質を探究する。また具体的なデザイン作品を取り上げ、様々な角度から分析検討してデザインプロセスを解きあかすことでその作品とデザイン思考の関係について考察させる。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として、ものづくり・空間づくりを歴史の実例で学んで、社会の中での美術の位置づけを理解し、さらにその意味を検証させることで美術教科の意義の理解を深める。	・人間がどのようにモノ・空間をつくってきたか歴史の実例に学んで、社会のなかでの美術の位置づけについて理解する。 ・現代の生活を形づくるモノ・空間について多様な観点から分析・鑑賞し、それを自分の言葉で表現できるようにする。	0.3	0.2	0.1	0.1	0.3
S477003	松島さくら子	工芸理論	各種工芸素材が、具体的にどのように用いられ、どのような工芸作品が生み出されてきたか、またどのような役割があったかを概観し、それらの工芸の多彩な表現を知ることにより、これからの工芸の可能性を探る講義である。	高等学校一種「美術」の選択科目、及び「工芸」必修科目である。	・各種工芸の歴史変遷を学習し、工芸のなりたちや歴史的役割、多彩な表現を理解する。 ・レポート課題を通し、これからの工芸の展望・表現の提案をおこなうことで、各自の工芸についての理解を深める。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S463002	本田悟郎	美術科教育法Ⅰ	中学校美術科の学習指導に関する諸課題を扱う。美術教育論などから美術科教育の意義を導き、題材研究、教材開発への基礎的視点を解説し、教育実践につながる指導助言を行う。	中学校・高等学校の美術免許取得のための必修科目であり、美術科学習の今日的な課題への問題意識と実践力を高めることに対応している。	学校および地域社会における美術教育全般の問題にも視野を拡張し、教育実践の諸能力を培うことを目標とする。	0.2	0.2	0.2	0.1	0.3
S463010	山口喜雄	美術科教育法Ⅱ	中学校美術の授業実践を制度・生徒理解・多様な指導法をさまざまな具体的事例や体験的学習などにより展開する。	中学校・高等学校の「美術」免許しゅとくのための選択必修科目であり、美術科教育を理念・理論および実践力の形成のために意義を持つ。	中学校美術科の学習指導に関する制度・生徒理解・多様な指導法をさまざまな具体的事例や体験的学習などをとおして、中学校の美術教師として主体的に学習指導が行える能力や態度の形成を目標としている。	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2
S464009	本田悟郎	美術科教材論	主に中学校の美術科教材開発の実践について取り上げる。指導要領および教科書研究を踏まえ、また、美術の造形要素を考察し、それらを題材に反映させ、適切な教材を考案するための指導助言を行う。	中学校教科美術に関わる科目であり、充実した授業内容を提供できる教員としての素養を育むことに対応している。	美術科の教材開発を中心に、その今日的な課題や可能性を検討し、教材開発への理解を深める。また、学習意欲の向上や学習効果の深まりを意識して教材を検討できる素養を育むことを目標とする。	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S465005	山口喜雄	美術科指導論	A：1875年～1943年の美術教育の歴史的文献、B：1946年～1956年の美術教育の歴史的文献、C：1981年～1998年の美術教育の歴史的文献、以上の3部構成で美術科教育のあり方や方法を歴史的な観点からとらえ、その教科書や制度・教育運動などの諸資料の調査・研究レポート発表・講義などを通じて、各々の時期における美術教育の理念や指導法からその本質を考察し、21世紀の美術教育や美術科指導のあり方を展望する。	美術教育を個人的な経験からしか捉えられない教師でなく、近代日本の美術教育形成過程の中で考察できる能力の形成を目指している。	美術科教育のあり方や方法を歴史的な観点からとらえ、その教科書や制度・教育運動などの諸資料の調査・研究レポート発表・講義などを通じて、各々の時期における美術教育の理念や指導法からその本質を考察し、21世紀の美術教育や美術科指導のあり方に対する自分らしい考えの形成を目標とする。	0.4	0.2	0.1	0.2	0.1
S479006	梶原良成	図法Ⅰ	図は、形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では美術の基礎および中高美術科工芸科で必要となる平面図学の基礎を主として扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校美術科、高校工芸科に広く共通する基礎的な理論科目として、またデザイン・工芸実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。	・デザイン・工芸・絵画における図像・文様や平面計画の基礎となる平面図形の実践的な作図能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。	0.4	0.1	0.2	0.2	0.1
S480004	梶原良成	図法Ⅱ	図は、形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では美術の基礎および中高美術科工芸科で必要となる立体図学の基礎を主として扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校美術科、高校工芸科に広く共通する基礎的な理論科目として、またデザイン・工芸実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。	・デザイン・工芸（プロダクトや建造物）の図面・レンダリングや絵画における図的表現の実践的な作図や読図の能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。	0.4	0.1	0.2	0.2	0.1
S485006	山口喜雄	造形教育論	A：造形教育概念の把握とその可能性を考える、B：子どもを軸にして造形教育像をさぐる、C：造形教育とその外延までもとらえる、以上の3部構成で受講生の造形教育への現状理解の発表と講義という方式で行っている。また、カテゴリーや心象・適応表現、シミュレーター教育・フレネ教育、「視覚型/触覚型」等の発表課題を設定している。	専門教育の「選択科目」であるが、小学校図画工作や中学校美術の授業実践を自信をもって行う理論学習としての意義を持つ。	小学校図画工作や中学校美術の授業の計画・立案や実践を行う際の造形美術教育に関する理解を通して理念や理論の形成を目標とする。	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1
S486002	本田悟郎	美術教育論	美術教育論の多様な視座や美術教育の歴史的展開を取り上げ、図画工作科および美術科教育、さらには社会における美術教育のあり方を考察する。	中学校教科美術に関わる科目であり、美術教育論から今日的な課題と教育観を導き、教育の現場に携わる上での素養を育むことに対応している。	美術教育論から導かれる今日的な課題を自らの考えと結び付けて検討し、教育の現場や美術諸領域のさまざまな活動を通して社会に貢献する素養を育むことを目標とする。	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1
S470005	株田昌彦	版画A	銅版画の制作手順および作品（レンブラント、駒井哲朗等）を紹介し、技法のメカニズムを講義する。それを踏まえエッチング、ソフトグラウンドエッチング、アクアチントによる作品制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、銅版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。それにより、美術の教師の専門的な知識や技能、作品鑑賞能力の向上を図る。	銅版画の特性を理解し、凹版特有の表現法について関心を高めると共に、銅版画制作を実践し、彫り、腐食、刷りといった技術を修得し、間接法（腐蝕によって溝をつくる）による銅版画のメカニズムを理解する。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S470013	株田昌彦	版画B	木版画の制作手順および作品(北斎、写楽等)を紹介し、技法のメカニズムを講義しする。それを踏まえ単色木版、多版多色木版による作品制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、木版画の表現的特徴を作品制作を通して伝授する。それにより、美術の教師の専門的な知識や技能、作品鑑賞能力の向上を図る。	木版画の特性を理解し、凸版特有の表現法について関心を高めると共に木版画制作を行う事により、彫刻刀の使用法、下絵の転写、色分解、刷りといった技能を修得する。木版画は小学校の「図画工作」や中学校・高等学校の「美術」の題材としてよく取り上げられるため、題材開発の能力を高める。	0.3	0.2	0.1	0.4	0.0
S471009	未定	彫塑V	全身人物をモチーフに粘土制作をする。芯棒の組み方、粘土の付け方、石膏取り、テラコッタ(直付け、張り込み)方法を学ぶ	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、彫塑Ⅰ、彫塑Ⅱで学んだ事を生かし、大作の制作法を習得する。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	0.5	0.1	0.1	0.3	0.0
S471017	未定	彫塑VI	全身人物をモチーフに粘土制作をする。芯棒の組み方、粘土の付け方、石膏取り、テラコッタ(直付け、張り込み)方法を学ぶ。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、彫塑Ⅰ、彫塑Ⅱで学んだ事を生かし、大作の制作法を習得する。	・人間を含む自然物の観察力の向上。 ・表現能力と技術の習得をする。 ・教授能力を身につける。	0.5	0.1	0.1	0.3	0.0
S473004	梶原良成	デザインBⅠ	グラフィック・デザイン分野を主とする(映像メディア表現を含む)。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行なう。課題では、コンピュータ(グラフィック・ソフト)を使用して、コンピュータならではの表現技法についても取り扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を創造的に展開していくための能力を身につける実技科目としての意義を持つ。また、卒業制作でデザイン分野を専攻する上で表現上技法上の前段階の意義を持つ。	・課題のテーマに合ったデザインプロセスを各自設定して、取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマについて、社会的なメディアとして総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1
S473012	梶原良成	デザインBⅡ	プロダクト、建築・環境デザイン分野を主とする。広がりを持った生活環境の中に課題を設定して、実技を行う。課題では、図面や模型・レンダリングなどのプレゼンテーション技法についてもあわせて扱う。	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を創造的に展開していくための能力を身につける実技科目としての意義を持つ。また、卒業制作でデザイン分野を専攻する上で表現上技法上の前段階の意義を持つ。	・課題のテーマに合ったデザインプロセスを身に付けて取り組むことができるようにする。 ・課題のテーマをその社会的なメディアとして総合的にとらえ、その多様なつながりから発想や構想することができるようにする。 ・作品コンセプトをわかりやすく整理されたプレゼンテーションで表現できるようにする。	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1
S476027	松島さくら子	工芸Ⅲ	漆工芸の基礎表現技法(乾漆他)を学習し、テーマ「面」について、機能性を考慮すると共に「イメージが素材を通してどう表現されるのか」ということを探る実技授業である。	専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める授業である。高等学校一種「工芸」の免許を取得するための必須科目。	・テーマに沿った課題に取り組むことにより、工芸の多様な表現について理解を深める。 ・漆工芸の知識と技能を通し、日本の工芸美術の変遷を理解できるようになる。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
---------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S476033	松島さくら子	工芸Ⅳ	設定されたテーマ「器」について、その機能・用途・表現方法を追求しながら、漆芸・陶芸・金工・木工などの素材を用いた表現技法にて、イメージが素材を通してどう表現されるのか、どのような表現の可能性が見いだせるかということ表現していく実技授業である。	専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める授業である。高等学校一種「工芸」の免許を取得するための必須科目。	・テーマに沿った課題の取り組みにて、自ら具体的な表現形態を設定し、自己表現形成能力を深める。 ・素材や表現方法を選択し、表現に必要な道具や加工方法を絞り、課題作品を実現させることにより、工芸の多様な表現について理解を深める。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S481000	株田昌彦	野外美術表現演習A	屋外にて三日間にわたり、水彩画もしくは油彩画制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、風景画における構図の組み立て方(視点、空間構成の要点)や素材の使用法について教授し、風景画への関心を喚起させる。また、「卒業研究」に向けた技能の向上を図る。	自然観察や鑑賞を通して、風景画における造形要素(形態、色彩、明暗、空間感)を意識した制作が出来る。小学校の「図画工作」や中学校・高等学校の「美術」において、風景画はオーソドックスな題材である。そのため風景を絵画で表現するための視点や技能を養うことで、美術の教師としての指導力を身に付ける。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S482007	株田昌彦	野外美術表現演習B	屋外にて三日間にわたり、水彩画もしくは油彩画制作の実技指導を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、風景画における構図の組み立て方(視点、空間構成の要点)や素材の使用法について教授し、風景画への関心を喚起させる。また、「卒業研究」に向けた技能の向上を図る。	自然観察や鑑賞を通して、風景画における造形要素(形態、色彩、明暗、空間感)を意識した制作が出来る。小学校の「図画工作」や中学校・高等学校の「美術」において、風景画はオーソドックスな題材である。そのため風景を絵画で表現するための視点や技能を養うことで、美術の教師としての指導力を身に付ける。	0.4	0.1	0.1	0.4	0.0
S483003	未定	美術実地調査演習	京都、奈良にある美術史上重要な作品を取り上げ講義を行い、事前調査のポイントを解説する。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、中学校・高等学校美術科、高等学校工芸における表現・鑑賞の能力を高め、古美術に対する興味関心を喚起する。	美術実地調査前に、関連する絵画・彫刻・建築・工芸などの歴史的背景を踏まえた造形的な特徴を理解する。また、それにより中高美術科・高校工芸科における表現・鑑賞の能力を高める。	0.4	0.1	0.0	0.4	0.1
S487009	未定	美術実地調査	京都、奈良にある美術史上重要な作品について実地にて解説を行う。	美術教育専攻の選択専門科目の一つとして、中学校・高等学校美術科、高等学校工芸における表現・鑑賞の能力を高め、古美術に対する興味関心を喚起する。	絵画・彫刻・建築・工芸などの歴史的重要な作品を実見し、美術実地調査演習で行った事前調査を基に考察を深める。また、それにより中高美術科・高校工芸科における表現・鑑賞の能力を高める。	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1
S488005	美術科全教員	美術研究セミナーⅠ	卒業研究(制作・論文)について、各分野(絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術科教育、)の説明を行い、受講者がそれぞれ選択した分野について指導を行う。	美術教育専攻の必修専門科目の一つであり、卒業研究の予備段階としての意義を持つ。計画的に作品制作及び論文執筆を行うための技能の育成や知識の教授を図る。	卒業研究を見据えた作品制作や論文執筆を行うための計画を立てる事が出来る。また、その計画に従って資料収集や習作の制作を行うことが出来る。	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2
S489001	美術科全教員	美術研究セミナーⅡ	卒業研究セミナーⅠの内容を基に各分野で卒業研究を視野に入れた課題を設定し、それについての指導を行う。	美術教育専攻の必修専門科目の一つであり、卒業研究の予備段階としての意義を持つ。計画的に作品制作及び論文執筆を行うための技能の育成や知識の教授を図る。	卒業研究を見据えた作品制作や論文執筆を行うことが出来る。また、それらの作品や論文について展示や研究発表を適切に行うことが出来る。	0.4	0.1	0.1	0.2	0.2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (美術教育専攻)

学習・教育目標	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
---------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号				
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, . . . , 0.9, 1.0 の数値で表す				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	美術科全教員	卒業研究	各分野（絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術科教育）において、卒業研究（卒業制作もしくは卒業論文）を指導する。	美術教育専攻の必修専門科目の一つであり、美術教育専攻で学ぶ実技、理論の集大成としての意義を持つ。計画的に作品制作や論文執筆に取り組む技能や能力の育成を目指す。	1年間を通して、各分野（絵画、彫塑、デザイン、工芸、美術科教育）の規定に基づく作品の制作もしくは論文の執筆を行うことができ、それらを完成させる事ができる事を目標とする。	0.4	0.1	0.1	0.2	0.2